

「通夜の席」



岐阜ろう劇団いぶき

岐阜県を中心としたろう者による劇団で1982年結成。
1995年世界ろう者会議演劇祭典(ウィーン)に日本代表として参加。
1996年岐阜県芸術文化奨励賞受賞。
舞台を通じて市民への理解を目的に、ろう文化のひとつとして活動を続けている。

公演

メンバー

河合依子
奥田しのぶ
井戸浩美
須藤海也
柳原留美
五十嵐智美
平井知加子
柳原康助
柳原大助
桜井 忍
北川勝紀
江口由香(照明)
堀井みなみ(照明)
早川幸代(手話通訳)



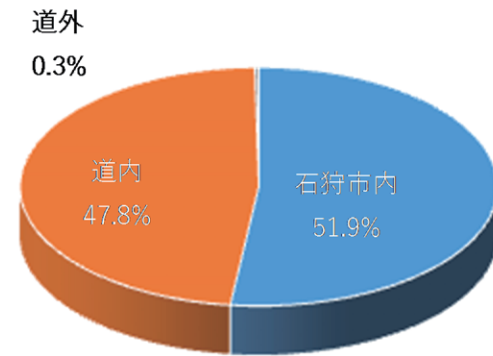
あらすじ

舞台はとある女性のお葬式前夜、通夜の席。親友“しの”の突然の訃報に驚くも、通夜に駆けつけ参列する人々。しかし、ろう者であるため、お坊さんのお経も説教も聞くことはできない。故人を縁に、集まる機会を得ることができた人々が、故人の在りし日を偲び、思い出話をしていると、成仏していない“しの”の魂が「自分は死んでいない、ここにいる。気が付いて！」と現れる。思い出話が進むうちに、親友にも知らされていなかった、健聴の婚約者が弔問に訪れ、故人の「知られざる事実」が明かされていく。「死んだものは褒められる」というが、出てくる話は…。事実が明らかになるたびに、この世に実体の無い“しの”が、右往左往しながら事情を説明するが、当然伝わるはずも無い。故人ゆかりの人々とろう者の日常も絡ませながら、ああでもない、こうでもない話すうち、次第に親友も故人の事情を理解していく。ようやく故人も自分の死を受け止め、この世で縁があったことに感謝して、成仏していった。

来場者アンケート

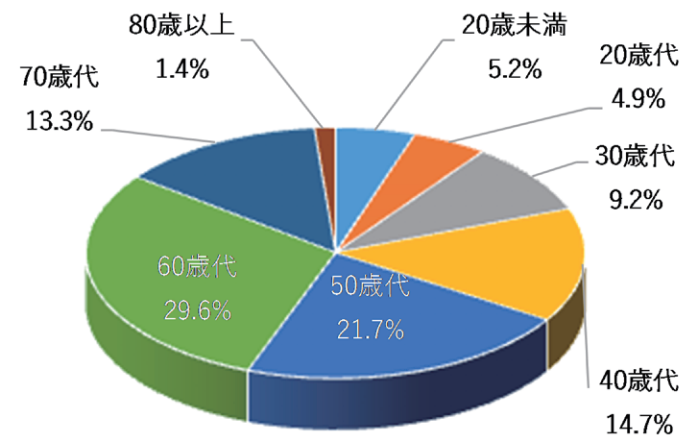
居住地

区分	人数
● 石狩市内	191人
● 道内	176人
● 道外	1人



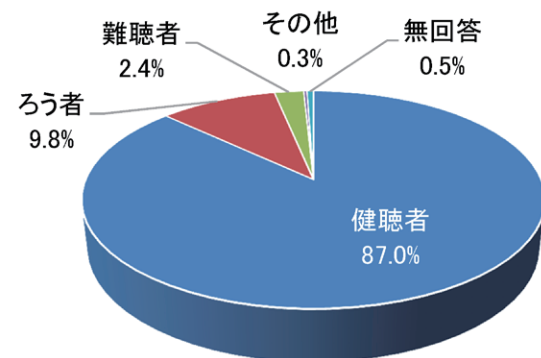
年代

区分	人数
● 20歳未満	19人
● 20歳代	18人
● 30歳代	34人
● 40歳代	54人
● 50歳代	80人
● 60歳代	109人
● 70歳代	49人
● 80歳以上	5人



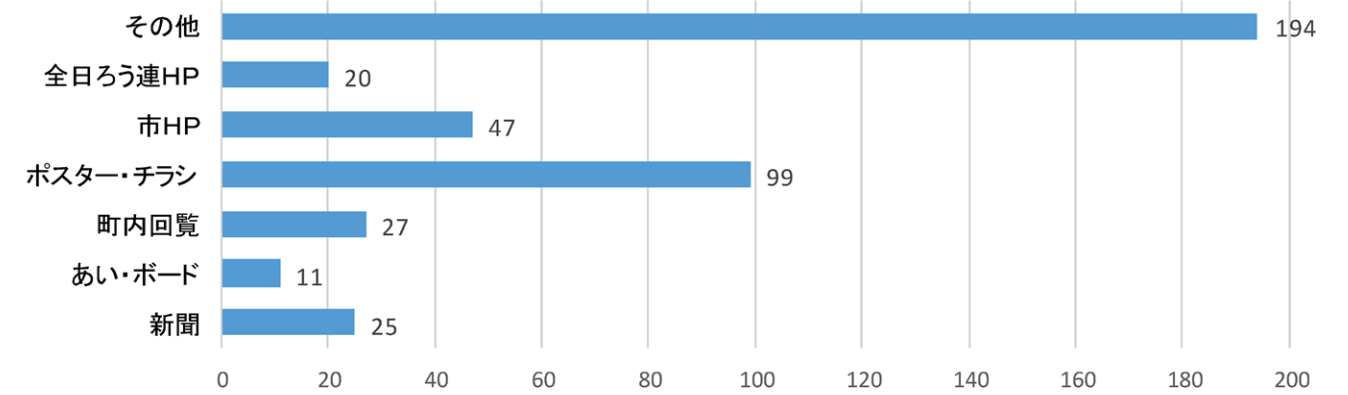
状況

区分	人数
● 健聴者	320人
● ろう者	36人
● 難聴者	9人
● その他	1人
● 無回答	2人

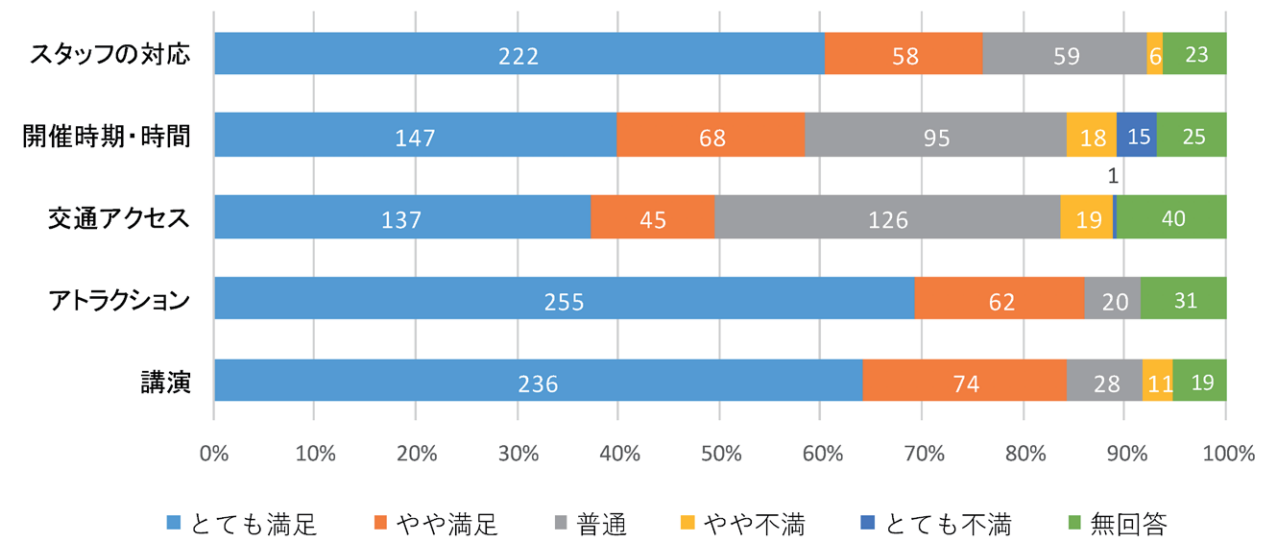


開催情報

【回答者368人：複数回答】



満足度



感想等

- 演出が素晴らしい。
- 情報保障もしっかりしていたし、スタッフも話しやすかった。
- 講演をもっと聴きたかった。
- 手話がわからなくても笑えた。
- 手話表現の豊富さに驚いた。
- 手話に対する理解を深められ大変有意義だった。
- 演者の表情、表現がとても豊かで感動。
- 手話の広がりを感じられた。
- 手話の奥深さを改めて知らされた。
- 手話を勉強したいと思った。
- ろう者と仲良くして手話を楽しみたい。
- 手話が言語と認められてうれしい。
- 石狩市長の考え方が素敵だと思った。
- 明石市長の手話とお話が素晴らしかった。
- とても良かった。また石狩に来てほしい。
- 字幕が早くところどころ読めなかった。
- 途中、機械トラブルで字幕が見えず残念。